

ひとりひとりの ごいっしょに考えあいましょう 子どもを大切にするために

子どもと父母のねがいは 学ぶよろこび、たくさんの友だち

子どもの
ねがい



もしもあなたが先生だったら

- 子どもの話を最後まで聞いてあげる (80.7%)
- 授業をおもしろくする (75.7%)
- 子どもと一緒に遊ぶ (72.4%)
- 勉強をわかるまで教える (58.5%)

(第3回大阪子ども調査 2006年)

「競走馬」のように走らされたくない

高校は勉強だけでなく、部活など楽しいスクールライフがあり、そのなかで心も成長していける場。だからこそ、学費で苦しみたくないし、勉強でまるで「競走馬」のように走らされたくない。



府立高校3年生 Fさん

▶「子どもたちに学力競争させるべき？」



日本教育社会学会「調査」(07年9月)

保護者の7割は
競争的な教育を否定



大阪の 全国最多の“不登校”

小学校 1,596人
中学校 7,539人
(大阪府/07年度)

「15の春」に泣く生徒たち

公立高校・不合格者数

前期入試 約7,500人
後期入試 約5,000人
(大阪府/06年度)

- ▶ 激しい受験競争で大阪の小学6年生の約50%、中学生は約75%が塾通い。
- ▶ 塾に通う60%の小学生は、夜11時より遅く就寝。「疲れやすい」「イライラする」とこたえています。

(国立教育研究所 通塾実態調査)

子どもを競争で追いたて 失敗すれば自己責任

冷たすぎる橋下知事

大阪府と橋下知事は教育力向上のための「プラン」と「緊急対策」を発表。その内容は点数競争で子どもたちをいっそう追いたて、「あいさつ100%」などの数値目標で「よい子」競争をあおっています。子どもを支える家庭の大変さ、競争でストレスをためこむ子どもの苦しみにはお構いなしです。

学ぶよろこび、豊かな人間関係をはぐくむ教育をごいっしょにつくっていきましょう。



©大阪民主新報

高校生 「母子家庭で経済的に楽でないなか私学に行かざるをえなかった」

知事 「金がないなら、なぜ公立へ行かない」

高校生 「公立に落ちるのも自己責任ですか」

知事 「いまの日本は自己責任が原則。いやならこの国を出るしかない」

高校生との懇談会で(08年10月23日)

知事 「口で言ってだめなら手を出しても

仕方がない」と体罰を肯定 府民討論会で(08年10月26日)